

日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会
(第24期・第3回)合同会議議事録

日時：平成30年10月4日12:00-13:00

場所：日本学術会議2階 大会議室

(基礎生物学委員会)

出席：城石、杉本、塩見、武田

欠席：西村、三村、川人

(統合生物学委員会)

出席：高木、山極、斎藤、松浦、渡辺、美宅

欠席：巖佐、川人

*川人委員は両方の委員会のメンバー

議題

(1)各分科会の活動状況報告

・ほとんどの分科会で役員が選出され、順調に活動を開始した。

・バイオインフォマティクス分科会(高木):ビッグデータの管理と活用に関する提言「持続可能な生命科学のデータ基盤に向けて」がまとまった。現在ドラフトが完成し、これから査読に回す。早晩発出の予定である。

・生物物理学分科会(美宅):2023年にIUPAB国際会議を日本で開催することが決定した。また、バイオイメージング推進にかかわる提言の準備を進めている。

(2)第24期学術の大型研究計画に関するマスタープラン(MP2020)について

研究計画・研究資金検討分科会の副委員長である武田委員から状況説明があり、その後意見交換を行った。生命系からの申請は、ロードマップや重点計画に選定されても予算がつくことはなく失望感が広まっているとのコメントがあった。武田委員、山極委員(会長)からは、今後は文科省予算である大規模フロンティアだけではなく、他省庁予算や産業界への働きかけが重要であるという意見があった。また、個別の課題として、沖縄に計画している自然史博物館の設立や生命科学の重要な研究基盤であるデータベースの整備強化等があるとの意見があった。

(3)生物リズム分科会からの提言(案)「サマータイム導入の問題点：健康科学からの警鐘」

城石委員長から、本提言が現在査読中であり、内容にコメントがある場合には至急提出して頂けるよう依頼があった。

(4) 夏季部会からの報告

城石委員長から、8月5日・6日に福島で開催された第二部夏季部会についての報告があった。

(5) その他

城石委員長から、基礎生物学委員会と細胞分科会が合同で毎年開催している高校生向けの公開シンポジウムについて、臨床医学委員会から協力依頼があったことの報告があった。具体的な計画の提案があった段階で、基礎生物学委員会としては細胞分科会に所属している塩見委員に対応して頂くことになった。

最後に、日本学術会議会長である山極委員から、委員会・分科会と学協会との連携を強化して欲しい旨の依頼があった。また、提言発出はスタートに過ぎず、そこから提言を届けたい外部関係者との対話を積極的に進めて欲しい旨のコメントがあった。